

## 特集：最近，公衆衛生上注目される動物由来薬剤耐性菌

### A Symposium : Recent topics on the antibiotic resistance bacteria from animals which have been potential impact on human health

#### 今回のシンポジウムにあたって

佐藤静夫(全農家畜衛生研究所)

片岡 康(日本獣医畜産大学)

家畜・家禽に対する抗菌剤の応用は，疾病の予防・治療用薬剤としてのみならず，一部薬剤は成長促進効果を有することから，飼料添加物としても応用されている。それぞれの用途については，投与された抗菌剤の畜産物中への残留による公衆衛生上への影響を考慮して，休薬期間の設定や対象動物ならびに添加量の規制などが行われている。しかしながら，従来から人の感染症の医療面における問題として，動物における抗菌剤の使用による耐性菌の発現と人への伝播が指摘されている。特に1970年代からメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)による院内感染の世界的な増加傾向，また，最近では本菌感染症に対する代表的な治療薬であるバンコマイシンに対する耐性腸球菌の発現は農場におけるアボパルシンなどの飼料添加物によるとの指摘，さらに，欧米をはじめとして世界的に多剤耐性Salmonella Typhimurium DT104による人畜の感染症の増加傾向などの薬剤耐性菌に

関わる問題がクローズアップされている。このような背景から，今回のシンポジウムでは，演題1として鯨島俊哉氏にはS.Typhimurium DT104による食中毒発生状況の世界的傾向ならびにわが国の牛をはじめとする家畜における保菌状況の調査成績などについて解説をお願いした。また，演題2として清水 晃氏にMRSAの特徴，疫学などの概説と動物由来MRSAに関する調査研究の現状についてお話をお願いした。

今回のシンポジウムの内容が，公衆衛生分野ならびに農場の衛生管理に関わる獣医師の方々のご参考になれば幸いである。

最後に，各演者の方々のご多忙中にもかかわらず快くお引き受けいただいたことを厚く御礼申し上げます。

なお，このシンポジウムの企画，進行，要旨編集などにご協力いただいた各位にも謝意を表します。